

# J A 自己改革推進レポートについて

平成31年4月23日  
J A 鳥取県中央会

## 1. J A 自己改革実践状況

### (1) J A 鳥取いなばの取り組み

#### ① 白ねぎ出荷規格見直しで出荷量増加目指す

J A 鳥取いなばは白ねぎ生産出荷協議会は3月19日、荷受け体制や出荷方法について協議した。平成30年度の秋冬白ネギの出荷販売状況を確認し、荷受検査体制や出荷規格の見直しについて提案した。生産者の出荷調整にかかる負担軽減、作業性向上により、出荷箱数増加を目指す。



#### ② 愛菜館の出荷会員向け研修会開催

J A 鳥取いなば農産物直売所「愛菜館」の愛菜館運営協議会は3月27日、春の栽培研修会を開いた。昨年末からの暖冬の影響で、病害虫被害が例年よりも早く発生し始めていることを受けて、「病害防除と殺菌剤の上手な使い方」をテーマに開催。春の収穫や定植を前にした研修とあって、同協議会の出荷会員約100人が参加した。



#### ③ 農機安全使用講習会で農作業事故防止へ

J A 鳥取いなば若桜支店は3月30日、農作業中の事故防止を呼び掛け、効率よく作業に取り組んでもらうため、農機安全使用講習会を若桜支店で開いた。支店行動計画の一環で企画し、組合員やJ A 職員など15人が参加した。



#### ④ いかり原牛舎完成から1年 肥育牛を初出荷

J A 鳥取いなばの和牛肥育施設「いかり原牛舎」で育てた牛1頭が4月3日、神戸市場へ向けて初出荷された。今年の10月頃から本格的に出荷が始まり、年間平均で260頭の出荷を見込んでいる。神戸市場を中心に、地元や東京などの市場へ出荷予定。



## (2) J A鳥取中央の取り組み

### ① 役員による「担い手訪問」の実施

4月3日、倉吉市関金で役員が畜産経営者および米生産者を訪問しJ Aに対する要望や意見を聴き取った。

その中では新規就農者の確保や生産者の所得増大について相談があり、現状の課題として各関係機関へ繋げ対応していく。今後も役員による担い手訪問を継続して行い、更なる支援に取り組む。



### ② (株)グリーンファーム大黒による「農業実践研修」の実施

J A鳥取中央の子会社(株)グリーンファーム大黒は、4月3日～5日、10日～11日の2回に分けて農業大学校アグリチャレンジ科の研修生5人を受け入れ、農作業研修を実施した。

同校のアグリチャレンジ科は、社会人向けの公共職業訓練として3か月間、就農に必要な基本的技能を学ぶもの。10日には2名の研修生がスイカのツルをまとめ、そろえる整枝作業を行った。

研修生は初めての作業に戸惑いながらも丁寧に作業を進め、笑顔を見せながら「現場での経験を積み、早くおいしいスイカが作れるよう頑張りたい」と話した。



### ③ 支所等による地域貢献活動

J A鳥取中央倉吉支所が第15回「うわなだ桜まつり」に参加した。「地域に寄り添うJ A」を目指し、J A自己改革の中で地域貢献の一環として昨年からの活動を始めた。会場ではJ A職員12人がビーフステーキなど80枚を焼き、また同J Aの直売所「旬鮮プラザよってみたい菜」も出店。旬のイチゴとイチゴ大福を販売し、会場に訪れた地域住民との会話により交流を深めた。同支所の中林順子支所長は「組合員、地域住民のみなさんとのふれあいを大切に、今後も継続して行っていきたい」と話した。



## (3) J A鳥取西部の取り組み

### ① 「夏ネギ省力化へ トンネル支柱打込機実演」

3月20日、境港市の県園芸試験場弓浜砂丘地分場で白ネギ省力化機械の実演会を開き、生産者や行政、J A職員など約30人が参加した。

実演会では夏ネギのトンネル支柱の打ち込みや、藤木農機製作所のトンネルマルチ打込機「う



ち丸」を実演。人手による支柱の打ち込み作業は、非常に労力が掛かり腰への負担も大きいですが、「うち丸」は一連の作業を簡単に行える。

しかし、実用化には課題も残り、同JA管内の白ネギ栽培は、畝の間隔が「うち丸」の規格より狭いため、実際の作業において現時点での導入は難しく、生産者の意見を聞きながら、改良へつなげていく予定。

参加した生産者の1人は、「一番大変な打ち込み作業を機械化できれば楽になる。今後の実用化に向けて課題が解決できれば大きな省力化につながる」と期待を寄せていた。

## ② 「クラスター事業を活用した繁殖牛舎竣工式」

4月3日、西伯郡南部町で繁殖牛舎の竣工式を執り行った。繁殖牛舎は、延べ床面積428平方メートルの鉄骨平屋建てで、畜産クラスター協議会が実施する「畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業」を活用し、畜産の生産基盤を確保と地域の畜産の収益性向上と発展を目的に新築された。同施設を利用する恩田畜産は従来肥育が中心だったが、今後は繁殖を増頭強化し、経営の安定と生産の効率化を図っていく。



この繁殖牛舎の建設を機に、西部管内の和牛農家がクラスター事業などを活用し、鳥取和牛の増頭に繋がっていくことが期待される。

## (4) JA 県域農業サポートセンターの取り組み

### ① 農業経営診断分析事業にかかるJAへの取り組み報告会の開催

農業経営診断分析事業について、JA役員・担当部課長への取り組み報告会を開催した。(3月18日JA鳥取いなば、19日JA鳥取中央)

報告会では、農業経営コンサルタントの渡辺喜代司氏により、平成28年度から3年間行った各JAモデル経営体への経営診断分析結果の報告と今後の支援へのアドバイスがなされた。

出席者からは「取り組みの重要性を再認識した」「対応出来る人材育成が必要だ」などの感想が出された。3年間の取り組みを今後現場での営農指導に活かしていく。



### ② JA直売所施設衛生・食品衛生研修会を開催

「鳥取県JA直売所推進協議会」は、各直売所店舗職員を対象とした「直売所店舗改善研修会」を開催した。(3月7日JA鳥取中央・満菜館、8日JA鳥取いなば・愛菜館、JA鳥取西部・アスパルは4月に開催予定。)

研修会は農協流通研究所の望月主幹研究員を講師に招き、現地において店舗改善指導と座学に



よる店舗マネジメント研修、グループワーキング等を行った。

参加者からは「店舗を実際に見ながらの指摘で大変勉強になった」「早速出来るところから改善したい」等の感想が聞かれた。

## **(5) JA全農とつとりのJA自己改革の実践**

### **① 生産コスト削減への挑戦**

＜肥料＞

共同購入による新たな購買方式への転換として取り組みを進めている国産化成肥料の銘柄集約は予約積み上げ目標 750 トン以上に対し、2JAで2銘柄 734 トン（H30 年度：735 トン）となり昨年同等の結果だった。

労働費削減に向けた肥効調節型肥料（一発肥料）の推進では、1,700 トンの目標に対し 2,476 トン（計画比 146%）の普及拡大となった。

＜農薬＞

農家の農薬コスト低減を目指す「担い手直送規格」の取扱い強化については、29 年度実績 500 h a（7 品目）から大幅に伸長し、30 年度は 636 h a（30 年度目標：450 h a）へ拡大した。（通常規格と比較して概ね 2～3 割の価格引き下げとなる）

## **(6) 食農教育を応援！！ ～小学生向け補助教材を贈呈～（JA鳥取信連）**

平成 31 年 3 月 22 日、鳥取県庁（第 2 庁舎 5 階 教育委員室）において、食農教育教材本の贈呈式を開催し、本会 入江理事長より鳥取県教育委員会 山本教育長へ「農業とわたしたちの暮らし」を贈呈した。

この取り組みは、JAバンク食農教育応援事業として、県内の小学校高学年向けに教材本を贈呈しているもの。入江理事長は「平成 31 年度版については、『これからの農業』のページを新設している。ぜひ教材本を活用していただき、子どもたちが主体的に話し合いながら、農業への理解を広めてほしい。」と述べた。山本教育長は、「自由研究での活用等、幅広く学習ができ、学校現場からの評価も高い。全国の中でも鳥取県では学校給食の『地産地消』に力を入れている。学校給食から鳥取県の豊かな農産物を学び、鳥取県の農業や食の大切さを伝えていきたい。」と感謝の言葉をいただいた。

平成 31 年度版は、県内 132 校に 5,929 冊の贈呈を予定しており、県内各小学校へは、それぞれのJAから直接贈呈することとしている。

## **(7) JA共済の地域貢献活動の取組み実績（JA共済連鳥取）**

## JA共済の地域貢献活動の取組み実績

JA共済では、今年（H31.3）で9年目となる「地域貢献活動（東郷湖班周辺の清掃活動）」を実施いたしました。

今回は、県本部職員と家族をあわせ48名が参加し、2班に分かれ湯梨浜町「ハワイ夢広場」と「あやめ池公園」周辺の空き缶・弁当殻・湖畔への漂着物などを拾いました。

JA共済が実施する共済事業と地域貢献活動が相互に機能することにより、地域に安全・安心の輪を広げています。そのため、毎年行っている清掃活動は、地域住民が暮らしやすい環境の整備に役立つことを願っています。



JA共済は、今後も共済事業と地域貢献活動を通じて「地域との絆」を強化し、組合員・地域住民の皆様が住み慣れた地域で健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

